

『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査結果

■アンケート調査概要

調査目的	『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』を読んだことのある10代～50代の男女42名
調査期間	2025年12月2日～2025年12月4日 2025年12月11日 2025年12月18日 2025年12月25日 2026年1月1日 2026年1月9日 2026年1月15日 2026年1月22日 2026年1月29日 2026年2月5日 2026年2月12日 2026年2月19日 2026年2月26日 2026年3月5日 2026年3月12日 2026年3月19日 2026年3月26日 2026年4月2日 2026年4月9日 2026年4月16日 2026年4月23日 2026年4月30日 2026年5月7日 2026年5月14日 2026年5月21日 2026年5月28日 2026年6月4日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	クラウドワークス・ランサーズ
データ使用サイト	https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/narusesyatyouhamendoumigayosugiru/

■アンケート項目

Q1:年代と性別を教えてください。

Q2:『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』を実際に読んだ感想を教えてください。

Q1:年代と性別を教えてください。

20代男性	0人
20代女性	1人
30代男性	0人
30代女性	1人
40代男性	9人
40代女性	0人
50代男性	30人
50代女性	0人

Q2:『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』の感想を教えてください。

成瀬社長は面倒見が良すぎる。 1巻～5巻	成瀬がやってくれました。これだけビシッとってくれると気持ちいいですね。愛理なら簡単に言いくめられると思っていただけに、瑛太もさぞかし驚いたことでしょう。不貞行為に対する慰謝料だけでなく、モラハラにも触れられた時の瑛太の焦りようが痛快すぎました。気がかりなのは愛理の職場です。職場では、瑛太が家出をしているという噂がすでに広まっていました。愛理がそういった噂を流していない以上、瑛太が情報を流していることは間違いありません。今後もこのような噂が広まれば、愛理にとって居づらい職場環境になるのではないかと不安に感じました。
成瀬社長は面倒見が良すぎる。 1巻～5巻	社内恋愛で結婚した愛理が、新婚なのに夫とのレスに悩んでいるの、突然ブチ切れた夫からの離婚話の切り出しと浮気相手がいることを告白され、パニックになりながらも会社には行き、夫のために通うことにした料理教室で、キレッキレの成瀬社長と出会うところに希望が持てました。講師ではないのに、初対面とは思えないスパスタ指導を受けた挙げ句、帰り道に憂鬱で泣いてしまった愛理に対し、夫にはちゃんと慰謝料を請求するように、弁護士まで手配する仕事の早さと面倒見のよさに、すでにときめきそうになりました。
成瀬社長は面倒見が良すぎる。 1巻～5巻	結婚一年目だというのに夫の瑛太が不倫していたなんて事実を聞かされた愛理の姿が本当にかわいそうでした。愛理は別に何も悪いことなどしていないのにあまりに酷い仕打ちです。しかし、そんな状況を好転させる出会いが起きるのでそこも面白いですね。料理教室で成瀬というイケメンと出会い関係が進展していく流れがとても物語をワクワクさせます。
成瀬社長は面倒見が良すぎる。 1巻～5巻	成瀬はかなり優秀な敏腕社長なのですが、作中で見せる何気なく醸し出すオーラが彼の魅力をさらに何倍にも高めています。随所で見せる仕草に余裕があり、こんな社長なかなかないだろうなという趣を実感できること間違いなしです。そんな成瀬と偶然出会うことができた愛理はかなりの強運の持ち主であることは間違いありません。2人の何気ないやりとりが後の展開を暗示しています。
成瀬社長は面倒見が良すぎる。 6巻～10巻	瑛太に対する苛立ちが増しました。不倫するだけでなく、こんな小細工までしてくるとは。愛理には頑張ってもらい、完膚なきまでに叩きのめして欲しいです。気になったのは愛理の転職です。ここで退職すると、噂に負けたという感じがしないでもありません。しかしここは成瀬の言葉に甘えた方がいいように思います。一度広まった噂の火消しなんて大変ですし、そこまでしてしがみつく会社

	でもないでしょう。愛理がどのような決断を下すのか注目したいです。
成瀬社長は面倒見が良すぎる。 6巻～10巻	夫が不倫していたという悩みを成瀬に相談した愛理が彼の助言を実行へと移す場面がとにかく面白かったですね。勇気を振り絞って「弁護士と話してほしい」と宣言する愛理の躍動感にはかなりの気迫が感じられました。瑛太が何も言い返せずまごついていた姿の爽快感たるやかなり滑稽でしたね。やはり成瀬の助言は間違いではなかったということでしょう。
成瀬社長は面倒見が良すぎる。 6巻～10巻	作中、成瀬さんの仕事がとても早いですね。愛理のために離婚調停申込書や慰謝料請求書などの素案をいとも簡単に用意してしまう姿にとてつもない格好良さがありましたね。こんなこと並みの人間では、できないことも成瀬には簡単にできてしまうわけですから、そこに彼の魅力が凝縮されていますね。愛理がその手早さに驚きを隠せない感じも面白いです。
成瀬社長は面倒見が良すぎる。 11巻～15巻	愛理の覚醒っぷりにスカッとしました。結果だけを見れば、瑛太の思い通りになってしまったように思います。でもその経緯が重要なんですよ。愛理自身が決断し、そして課長相手にズバっと言う姿は爽快でした。気がかりなのはスーパーで知り合った男性、前園です。愛理が不倫しているという証拠を捏造する為、瑛太の差し向けた男性のような気がするんですよ。瑛太の差し金の可能性もあり、今後の動向に注目したいです。
成瀬社長は面倒見が良すぎる。 11巻～15巻	ただの恋愛漫画じゃないです。夫に突然の不倫宣言されて絶望のどん底にいる愛理が、料理教室で出会った敏腕社長・成瀬さんに助けられる物語。成瀬社長は、主人公の愛理に対してただ優しいだけでなく、耳の痛いこともハッキリ言う厳しさを持っています。俺が面倒見てやるよといった熱意ある面倒見と、社長としての的確な指導が込められた各セリフに、みんなが夢中になっているみたいですよ！愛理の自分を変えようと頑張る姿、成瀬社長の不器用さの中の優しさに、胸が熱くなること間違いなし！
成瀬社長は面倒見が良すぎる。 11巻～15巻	とにかく成瀬社長が格好良すぎますね。愛理に優しく話しかけている何気ない横顔がめっちゃくちゃ色気に満ちていてそそります。あと駅で2人で話している時の愛理との身長差にもかなりときめくこと間違いなしです。愛理がふと仕事でも成瀬社長のことを考え込んでしまう姿にも可愛らしさがあって2人を見ているうちに、かなりお似合いのカップルなのかもと思うようになること間違いなしです。
成瀬社長は面倒見が良すぎる。 11巻～15巻	愛理と成瀬のやりとりが本当に聞いていて心地よいです。馬が合う感じで、これからの行動を色々話し合うのですが、成瀬のアイデアに頷きながら「上手くできた」ということを嬉しそうに報告している愛理の表情が生き生きとしていて魅力的でした。やっぱりこの場面を見て2人の相性はかなりいいのだということに深く実感できましたね。
成瀬社長は面倒見が良すぎる。 16巻	今回のことで、瑛太が離婚を望む気持ちが理解できたように感じます。少し抜けているところも愛理の魅力の一つですが、これから共に喜びや苦労を分かち合うパートナーとして考えると、どうでしょうか。ハニートラップの件に関しても、本来なら当事者である愛理自身が気づくべきことです。思慮が足りないというか、もう少ししっかりしてほしいですね。気になるのは前園からの誘いです。以前の愛理なら、迷わずついていったでしょう。しかし、今の愛理は成瀬から厳しく言われています。前園についていくのか、それとも断るのか。どのような決断をするのか、とても興味深いです。
成瀬社長は面倒見が良すぎる。 16巻	愛理がある男性と会おうとしていることを成瀬が咎める場面があるのですが、そこでの成瀬の観察眼が素晴らしいですね。「これはハニトラだ」ということをあっさりから見破って愛理に注意を促している姿にとてつもなくできる男感があったたまりません。愛理の間の抜けた感じと対照的でより成瀬が優秀に見えてくること間違いなしです。成瀬の愛理に対しての微かな優しさがより伝わる場面でした。
成瀬社長は面倒見が良すぎる。 16巻	成瀬の言動は本当に優しさに溢れています。愛理のために作戦会議として、いろいろなアドバイスをしてくれている姿に彼の性格の良さが滲み出ていますね。愛理もそのことを内心自覚していて成瀬に対してなんとなく心惹かれている感じが見て取れるのでその点も面白いところです。早く愛理が夫と別れて成瀬といい感じになってくれることを強く願っています。
成瀬社長は面倒見が良すぎる。 16巻	これが実はハニトラだということに全く気づかずに行動してしまっていた愛理の姿がなんだかとても可愛らしく見えました。凄く純粋で愛理らしいです。その後、成瀬に指摘されてようやく気がついた感じで愛理のちょっと危なっかしい性格を物語っていましたね。前園という人物が愛理を罠に嵌めようとしていることを成瀬が教えてくれた場面は成瀬の愛理に対しての直向きな愛情がかなり滲

	み出ていましたね。
成瀬社長は面倒見が良すぎる。17巻	これは成瀬のファインプレー。成瀬と一緒に行かなかったら、恐らく前園の思惑通りになっていたでしょう。それどころか何故愛理についてきたかの事情を話し、釘まで刺します。成瀬の言葉に、顔を引きつらせる前園の姿が最高でした。気がかりなのは愛理です。今回は成瀬の助けがあったから、どうにかになりました。しかし、あまりにも不用心。一度痛い目を見た方がいいんじゃないでしょうか。
成瀬社長は面倒見が良すぎる。18巻	成瀬の活躍っぷりが見事でした。というか、成瀬は前園と瑛太の写真を持っていたわけですし、すべてを掌握していた感がすごいですね。写真だけだと言い逃れされる可能性もありますが、ここまでの証拠を掴めば否認はできないでしょう。まるで名探偵のような成瀬がとてまかつこよかったです。気になるのは成瀬の反撃です。瑛太はハニートラップまで使ってきました。かなり悪質で、離婚協議において不利に働くことは間違いありません。瑛太が請求される慰謝料の総額がどれくらいになるのか、楽しみです。
成瀬社長は面倒見が良すぎる。19巻	成瀬がついてきてくれて、本当に良かったですね。愛理一人だけだったら、まんまとハニートラップに引っかかっていたでしょうから。今回のことは愛理にとってショックだったでしょうけど、成瀬との距離を縮められたのは不幸中の幸いでした。今回のハニートラップに対してどのように対処するのかが気になります。成瀬のことだから、瑛太が言い逃れできないような物証を集めてくるでしょう。それを利用して、慰謝料をどれだけ増額するのか楽しみです。
成瀬社長は面倒見が良すぎる。20巻	涼子って、週一会うぐらいなら良い相手だとは思いますが。しかし、結婚して一緒に生活するとなると、少し難しいのではないのでしょうか。実際、瑛太もそれを感じ始めていて、二人の関係がこれからどうなっていくのか楽しみです。気になったのは涼子の行動です。探偵の報告書を見たときの彼女の表情が普通ではありませんでした。この写真を見て、彼女がどんな行動を取るのか注目したいと思います。
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』21巻	ここに来て、作品タイトルの意味がなんとなく理解できた気がしました。好意を抱いている人が困っていたら、助けてあげたいものだと思います。成瀬は愛理の面倒を見てきましたけど、そういう理由があるのかなと思っていました。しかし、同僚たちをみて、単純に成瀬の面倒見が良すぎるだけなんだって痛感しました。愛理もワケありでしたけど、同僚たちはそれ以上。むしろ、愛理が一番まとも感じられるほどです。面倒見が良すぎると言われるだけのことはあると納得してしまいました。
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』22巻	瑛太は女性を見る目が全くないんだなと呆れてしまいました。自分は一生懸命仕事をしているのに、相手は遊び感覚で配信しているのです。瑛太が憤りを感じる気持ちは理解できます。しかし、そんな涼子を選んだのは他でもない瑛太自身。恨むなら自分を恨むべきだと思います。そういった経緯から、瑛太と涼子の今後が気になりました。涼子は愛理とは違い、気の強い女性です。もし瑛太から文句を言われたら、涼子は言い返すでしょう。そうなった時、瑛太がどのような反応を示すのか注目したいです。
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』23巻	涼子があっさり別れを受け入れたことに驚きました。今では瑛太と一緒に暮らしていますが、涼子が今の環境を簡単に手に入れたわけではありません。瑛太は既婚者でしたし、専業主婦を望む女性と結婚しようとする男性も少ない時代です。苦勞した分だけ瑛太を手放したくないのではとっただけに、この反応は意外でした。別れに応じにゴネたり、応じたとしても慰謝料的なものを請求するのではとっただけに。瑛太に関しては、自業自得だと思います。今回が初ならともかく、仕事を辞めたのもこれが原因だったわけですから。過去の失敗から何も学んでいないのだなと呆れました。
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』24巻	成瀬の面倒見の良さには驚かされました。愛理だけでなく、小沢や木下もかなりお世話になっていたんですね。改めて、素敵な人と出会えたのだと感じました。愛理と瑛太の話合いが気になります。わざわざ会って話をしたいと言うくらいですから、何かあるだろうと思っていました。しかしまさか、復縁を考えていたとは想定外。愛理がどのような返事をするのか、注目したいです。
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』25巻	今回の離婚は瑛太にとって、良い経験になったなって思います。自分の過ちに気づき、そして反省することが出来ました。復縁こそ出来なかったものの、この経験は次の恋愛や結婚に生きてくるのではないのでしょうか。愛理とは残念な結果に終わりましたが、前を向いて歩いて行って欲しいです。

	<p>ね。愛理のことを心配してくれる人たちにホックリしました。特に印象的だったのは、成瀬から送られてきたスタンプです。心配そうに見守るイラストが成瀬のイメージにピッタリ過ぎて、笑ってしまいました。</p>
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』26巻	<p>今回、財産分与の金額に強い違和感を覚えました。確かに瑛太は探偵やハニトラ等で散財しましたが、それは愛理と別居した後です。しかし、別居後の散財はカウントされませんから、関係ありません。逆に言うと、これが通じてしまうなら、離婚する相手にお金を渡したくないと思って散財する人が後を絶たなくなってしまうでしょう。今回のケースで言うと別居時の共有財産を元に財産分与は行われるものなので、振り込まれた16万円は適正ではありません。相変わらず愛理は騙されやすいんだなって感じました。</p>
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』27巻	<p>愛理らしくて笑ってしまいました。愛理には悪いですけど、やはり愛理はこうでないと。ドジっ娘ぶりが可愛くて、微笑ましいです。気になったのは、愛理も一泊すると言い出したことです。そもそも成瀬が広島で一泊するハメになったのは、愛理がやらかしたから。そのことを全く理解してなさそうなんですよね。社会人として大丈夫なのかと愛理が心配になりました。</p>
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』28巻	<p>愛理って残念な人だなって感じました。自分のミスで成瀬に迷惑掛けているということを、全く理解していないのではないのでしょうか。そうでなければ、あれほどしつこく食い下がることはできないと思います。宿泊費についても同様です。本当に反省しているなら、成瀬から経費で落とすと言われても断っていたでしょう。せめて、ありがとうございますと即答するのではなく、一～二回は断りをいれるべきだったのではないかと思います。</p>
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』29巻	<p>愛理の能天気さが微笑ましく感じました。普通に考えれば、愛理の方が警戒しなければいけないシチュエーションなんです。にもかかわらず、愛理は全くそういうことを考慮せずに成瀬を誘いました。この何も考えていないところが愛理らしくていいですね。一方、罰ゲームが気になりました。具体的にどんな罰を受けることになるのか決めていません。成瀬が愛理に一体何をさせるのか、注目したいです。</p>
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』30巻	<p>罰ゲームの内容が素敵でした。てっきり愛理を困らせるようなものかと思ったら、むしろその真逆。愛理のためを思っただけのことだったので。成瀬が愛理に、放っておけないからと伝えた言葉の影響が気になります。おそらく成瀬には恋愛感情はないと思われませんが、愛理の気持ちはどうでしょうか。離婚問題や仕事のミスで落ち込んでいる時に、こんな優しい言葉をかけられたら、胸がときめいても不思議ではありません。この言葉が愛理にどのような影響を与えるのか、注目したいです。</p>
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』31巻	<p>木下は悲し過ぎますね。愛する男性のために無理しているという事自体は気にしません。困っている時はお互い様だと思いますし、木下も納得した上でのことなのですから。しかし、渡したお金の使われ方が酷すぎました。早く木下の目が覚めてくれることを祈るばかりです。成瀬が騎士の前に姿を現したことが気になりました。このタイミングで現れたのですから、成瀬が木下たちの会話を聞いていたことはほぼ間違いないでしょう。成瀬がどのような面倒見の良さをみせてくれるのか楽しみです。</p>
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』32巻	<p>騎士にはイライラしました。成瀬の言い分は筋が通っていますし、自重しなければいけないのは騎士の方です。にもかかわらず、反省している様子は全く見受けられません。その様子を見ていると、木下はなぜこのような人物に惹かれているのだろうかと感じてしまいました。一方で、騎士の動きが気になります。木下が成瀬と愛理の関係に触れたことで、何やら良からぬことを企んでいるようにも見えました。一体何をしようとしているのでしょうか。今後の展開に注目したいです。</p>
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』33巻	<p>木下の話がとても面白く感じられました。というのも、その内容には確かに一理あるんですよ。成瀬はこれまで愛理の面倒を見てきましたが、普通であればそこまで踏み込むことはなかなかありません。そう考えると、二人の関係を特別なものではないかと勘ぐってしまう気持ちも理解できます。その話を聞いたときの愛理の反応が微笑ましく、全体として楽しめるやり取りだったと感じました。</p>
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』34巻	<p>木下が想像以上に行動派で驚きました。成瀬を呼ぶにしても、まさか愛理に無断で呼んでいたとは。その後も二人きりにしようとするなど、恋愛が絡んだときの木下は凄いですね。一方、どんな罰ゲームが行われるのか気になりました。ここまで場が盛り上がってしまえば、トランプで遊ぶ流れ</p>

	はほぼ確定でしょう。となると、どんな罰ゲームが飛び出すのでしょうか。成瀬と愛理をくつつけようとする木下がどのような提案をするのか注目したいです。
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』35巻	ホス狂いは伊達じゃないと感じさせる、木下の見事な立ち回りでした。これまで愛理は、成瀬と二人きりになっても恋愛的な感情を抱くことはありませんでした。それにもかかわらず、木下の働きかけによって、その気持ちに変化が生まれます。恋愛の機微を熟知した、いわば恋愛マスターのような存在だと感じさせられました。一方で、騎士の動きも気になるようです。愛理に対して何を仕掛けようとしているのか、今後の展開に注目したいです。
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』36巻	愛理の対応は、かなり印象的でした。木下にお世話になっている立場上、その恋人である騎士からの誘いを断るのは簡単ではなかったはずですが、しかも周囲に人がいない状況でしたから、プレッシャーもあったでしょう。それでも流されることなく、きっぱりと拒否した姿からは、愛理の芯の強さがしっかりと伝わってきました。彼女の成長や自立が感じられる、良いシーンだったと思います。一方で、騎士の今後も気になるようです。成瀬の面倒見の良さを踏まえると、このまま騎士を放置するとは考えにくいでしょう。むしろ今回のやり取りをきっかけに、何らかの形で関わりを持ち続ける可能性は十分にありそうです。成瀬が騎士にどのような影響を与えることになったのか、注目したいです。
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』37巻	こんな展開になる気がしていました。騎士があまりにも放っておけない雰囲気だっただけに、成瀬の面倒見の良さが発動してしまうのではないかと。そんな予感が、そのまま的中したように感じます。ただ、実際に話してみると、騎士は思った以上に人柄の良さも見えました。案外ホストよりも昼の仕事のほうが向いているのかもしれないですね。一方で、気になるのは成瀬と愛理の状況です。今はまだ内装が完成したばかりの段階であり、こうした不測の事態に対応できる設備が十分に整っているとは考えにくいでしょう。しばらくは真つ暗な空間で過ごすことになりそうですし、助けが来るまで二人がどのようにこの状況を乗り切るのか、今後の展開に注目したいところです。
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』38巻	これは非常に切迫した状況であるといえます。空腹であればある程度は我慢することも可能ですが、トイレとなると長時間耐え続けるのは難しいものです。すでに限界に近い状態であることを考えると、あと30分ほど持ちこたえられればよい方ではないでしょうか。このままでは、成瀬の前で粗相をしてしまうことになりかねません。この危機的な状況をどのように乗り越えるのか、今後の展開に注目したいです。
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』39巻	愛理が無事に助かったことに、ひとまず安心しました。もしあの状況で限界を迎えてしまっていたら、愛理にとって非常に大きな精神的ダメージとなっていたことでしょう。というのも、恥ずかしさだけではありません。密室という環境上、その場の状況から逃れることもできず、助けが来るまで二オイに長時間耐え続けなければなりません。そう考えると、間に合ったことは本当に幸運だったと感じます。一方、黒川が存在が気になりました。単に黒川が親しげに接しているだけであればまだ理解できますが、成瀬の反応にもどこか特別なものを感じます。まるで、恋人を見るかのような柔らかな視線を向けていたようにも見えたともいいましょか。果たして黒川と成瀬がどのような関係なのか、注目したいです。
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』40巻	黒川の有能さには驚かされました。英語が堪能だというだけでも十分すごいのですが、それ以上に印象的だったのは、成瀬と対等な目線で自然に会話していたことです。これまでの描写からは、成瀬が会社を引っ張っていく中心人物という印象が強かっただけに、同じレベル感で意見を交わせる存在がいたことに驚かされました。単なる優秀な後輩というだけでなく、成瀬にとって相棒と呼べるような仕事仲間なんですね。一方で、気になるのは愛理の今後です。黒川に憧れを抱く気持ちはよく理解できます。しかし、その憧れが強すぎるあまり、無理に背伸びをしてしまわないか少し心配にもなりました。
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』41巻	黒川の強い意気込みは十分に理解できました。だからこそ、これまでの成瀬との方針の違いに、不安を覚えます。特に気になったのが、小沢と木下の存在でした。この二人は、成瀬がつい面倒を見てしまうほど、どこか抜けたところのある社員です。そんな彼らが、黒川の厳しい要求や高い基準についていけるのか、今後うまく適応できるのだろうか心配になりました。
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』42巻	まさに、黒川らしい展開でした。黒川は自分自身に厳しいだけでなく、周囲にも同じレベルの意識や努力を求めるタイプに見えます。だからこそ、これまで比較的穏やかな空気だった職場で摩擦が生まれるのは、ある意味当然と言えるでしょう。理屈としては正しいことを言っている、それを

	<p>受け入れられるかどうかはまた別問題ですし、周囲をまとめていくのはかなり苦労しそうです。特に、小沢と木下はかなり大変そうに感じました。愛理の前向きな言葉を聞いても、二人にはほとんど響いていないように見えましたし、不満や反発心の方が強い印象でした。この対立が今後どのように変化していくのか、注目したいです。</p>
『成瀬社長は面倒見が良すぎる。』43巻	<p>何気に、今回の愛理はファインプレーだったと思います。木下は愛理の言葉に納得できず、続けて黒川への不満や批判を口にしていました。これに小沢も同調していたため、普通なら愛理もその場の空気に流されてしまっても不思議ではなかったでしょう。もし愛理まで同調していたら、その場は三人で黒川の陰口を言い合うような展開になっていたかもしれません。そうなれば、黒川の精神的な負担は、さらに大きなものになっていたと思います。しかし、愛理は木下たちの意見に安易に流されませんでした。そんな愛理だからこそ、慰めの言葉も黒川の心に響いたんだと思います。先輩二人の意見に流されることなく、自分の考えをしっかりと伝えた愛理の姿はとても立派で、思わず褒めてあげたくなりました。</p>

漫画全巻の部屋

by (株)グリュックス